

令和7年度 事業報告書

人間を救うのは、人間だ。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

京都府支部

目 次

写真で見る日本赤十字社京都府支部の活動

はじめに

	ページ
1. 災害救護活動・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2. 赤十字の各種講習・・・・・・・・・・・・・	9
3. 赤十字奉仕団・・・・・・・・・・・・・・・・	10
4. 青少年赤十字（JRC）・・・・・・・・・・・・・	13
5. 医療事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
6. 健康相談など医療社会事業・・・・・・・・・・・・・	21
7. 看護師の養成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
8. 血液事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
9. 国際活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
10. 社員（支援者）増強と社資（活動資金）募集・・・・・・・・・・・・・	25
11. 赤十字思想の普及・広報活動・・・・・・・・・・・・・	28
（資料）令和7年度の主な行事・・・・・・・・・・・・・	33
表 彰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
役職員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
評議員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
日本赤十字社京都府支部 地区・分区組織図・・・・・・・・・・・・・	37
施設一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38

写真でみる日本赤十字社京都府支部の活動

災害対応力の強化に向けた救護班研修



第4ブロック赤十字救護班研修
～災害時に迅速かつ的確な救護活動を行うための知識と技術を磨く～
被災地内の病院支援・避難所支援

講習事業を通じた安全知識と技術の普及



水上安全法講習
～水の事故防止と救助技術の習得に向けて～



幼児安全法講習
～子どもの事故予防と応急手当を学ぶ～



救急法講習
～いざという時に役立つ救命知識
と技術の普及～

次世代を育む青少年赤十字の取組



リーダーシップ・トレーニング・センター
小学生の部



リーダーシップ・トレーニング・センター
中学生の部



赤十字思想の普及・広報活動



お仕事体験 ～ 段ボールベッドの組み立てに挑戦 ～



大阪・関西万博「赤十字パビリオン」
～ 赤十字の理念と活動を広く発信～

は じ め に

日頃から京都府民の皆様や関係各位の方々には、赤十字事業推進に格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

近年、国内では地震、大雨、山林火災等による災害がますます頻発化、激甚化しています。また、海外に目を向けると、大規模災害に加え、中東やウクライナなど特定の国・地域での武力紛争はいまだ終息を見ず、人々は人道の危機に直面しています。このような状況の中、「目の前の苦しんでいる人を救う」という理念のもと世界各地で支援活動を展開する赤十字の役割はますます重要なものとなっています。

京都府支部では、2年半前の能登半島地震において、発災直後に現地で展開した支援活動と、そこで学んだ経験を活かし、いざ災害が起こった際に、迅速・的確に救護活動につなげられるよう管内施設が一体となり、平時の訓練・研修等の充実に努めています。それらの活動は皆様からいただいた多大なご支援・ご協力により支えられており、改めて感謝申し上げます。

令和7年度、日本赤十字社は、「大阪・関西万博」において、赤十字パビリオン「国際赤十字・赤新月運動館」を半年間にわたり展開。31万人もの来館者を日赤職員・ボランティアが温かくお迎えし、多くの皆様から感動・共感・励ましのメッセージをいただくなど、赤十字の歴史的な発信の機会となりました。

京都府支部においても、各地のイベント等での出展機会を増やし、SNS等新たな媒体を使って赤十字をより身近に感じていただけるよう広報発信に努めるとともに、災害救護、各種講習、医療事業、血液事業など基幹となる事業の着実な推進を通して、活動への一層の理解と信頼を得られるよう取り組んでいます。

令和8年度は赤十字講習事業100周年、そして令和9年度には日本赤十字社創立150周年を迎えます。これらの節目にあたり、人間のいのちと健康、尊厳を守るため歩んできた歴史を今一度振り返り、支部、各病院、血液センター職員が一丸となって、使命を果たしてまいります。

皆様のなお一層の温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年6月

日本赤十字社京都府支部

1. 災害救護活動

(1) 救護員の体制

災害時、初動期から中長期におよぶ医療救護活動ができるよう、京都第一・京都第二・舞鶴の各赤十字病院の医師・看護師等からなる常備救護班を15班編成するとともに、血液センターにおいては血液供給班を編成するなど、有事に備える体制を構築しています。

災害等緊急派遣に対応する救護班要員の任命状況については次の通りです。

施設名	医師	看護師	一般職員	その他	合計人数	登録区分
京都府支部	0	1	12	0	13	災害対策本部要員
京都第一日赤	19	32	15	19	85	常備救護班要員
京都第二日赤	6	23	10	9	48	〃
舞鶴日赤	3	9	3	3	18	〃
血液センター	0	0	6	0	6	災害対策本部要員
合計	28	65	46	31	170	

※京都第一日赤及び京都第二日赤の常備救護班要員には、日本DMATと京都DMATの登録者を含んでいます。

(2) 防災ボランティア団体等の状況

京都府支部における防災ボランティア団体としては、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、医療救護支援活動から物資搬送・炊き出しまでの総合的な救援活動を迅速に行う災害ボランティアを目指して平成8年1月に発足した、「赤十字レスキューチェーン京都」があり、有事の際に実働し得る団員を確保するためメンバーの増員を図るとともに、特殊技術を有する個人を防災ボランティアとして登録するなど、支部における防災ボランティアの活動基盤の構築と発展に努めています。

○赤十字レスキューチェーン京都 支会別会員数（令和8年3月31日現在）

支会名称	団員数（人）
舞鶴支会	4
福知山支会	6
亀岡支会	11
京都支会	16
長岡京支会	8
宇治支会	13
合計	58

また、災害初動期の医療救護活動の支援体制をより強固にするため、団員のうち所定の基準を満たす者を本社規程に基づく特殊救護要員に登録し有事に備えています。

令和7年度特殊救護要員登録者数（人）	24
--------------------	----

（３）救護員等の訓練、研修

京都府支部では、救護体制及び技術の向上に努めるため、京都府や京都市など行政機関が実施する総合防災訓練等への参加や、赤十字独自の救護訓練を実施するなど、実践的な訓練や研修に積極的に取り組んでいます。

① 各種防災救護訓練の参加実績（ボランティア派遣人員を含む）

訓練名称	実施日	会 場	参加者（人）
支部管内合同訓練	5/10	京都府支部	106
第4ブロック合同災害救護訓練	6/7	大阪府 （高槻赤十字病院ほか）	54
京都府総合防災訓練	8/31	宮津市（海洋高校ほか）	34
福知山市地域防災訓練	8/31	福知山市（由良川河川敷）	9
市制70周年記念亀岡市総合防災訓練	9/6	亀岡市（亀岡市防災広場）	18
宇治市総合防災訓練	10/19	宇治市（南部小学校）	6
宇治田原町総合防災訓練	10/26	宇治田原町 （宇治田原中央公園）	4
京都市総合防災訓練	11/1	左京区（岡崎公園一帯）	23
京都府原子力総合防災訓練	12/14	上京区（京都府庁）	2
令和7年度近畿管区広域緊急援助隊合同訓練	1/28	陸上自衛隊長池演習場	8
支部管内合同訓練	2/7	京都府支部	90



京都市総合防災訓練
（救護所の様子）

② 職員等救護員を対象とした教育研修実績

研修会の名称	実施日	会 場	参加者（人）
全国赤十字救護班研修	8/23～24	京都第一赤十字病院	2 6
こころのケア研修会	9/22	舞鶴赤十字病院	7
日赤災害医療コーディネート研修会 （第2回）	9/26～27	本社	2
救護員としての赤十字看護師研修 （救急法）	10/21～23	舞鶴赤十字病院	9
こころのケア指導者養成研修会	10/22～23	本社	1
日赤災害医療コーディネート研修会 （第2回）	9/26～27	本社	2
日赤災害医療コーディネート研修会 （第3回）	11/1～2	本社	1
救護班要員基礎研修	12/21	京都第一赤十字病院	7 7
こころのケア研修会	12/24～2/2	京都第二赤十字病院 (E-learning＋対面)	2 0
こころのケア研修会	2/9～3/6	京都第一赤十字病院 (E-learning＋対面)	2 1
緊急車両特別研修	1/24～25	兵庫県 (はりま交通センター)	8
こころのケア指導者フォローアップ 研修会	3/1	WEB	2 8
日本災害医学会総会・学術集会	3/19～21	新潟県（朱鷺メッセ）	1

③ 救護体制の検討等に関する会議

会議の名称	実施日	会 場	参加者（人）
第4ブロック救護員指導者協議会	5/20	大阪府支部 WEB（オンライン）併用	1 9
第4ブロック救護員指導者協議会	9/12	大阪府支部 WEB（オンライン）併用	1 8
支部救護員指導者協議会（第1回）	12/3	京都府支部 WEB（オンライン）併用	2 0
第4ブロック救護員指導者協議会	12/9	山城総合運動公園 WEB（オンライン）併用	1 9
支部救護員指導者協議会（第2回）	1/21	京都府支部 WEB（オンライン）併用	2 5
第4ブロック救護員指導者協議会	3/2	京都府支部 WEB（オンライン）併用	1 9

(4) 日本赤十字社防災教育事業（赤十字防災セミナー）

京都府支部では、受講者に対して災害への備えや非常時の心構え等を紹介するとともに、災害時における赤十字の活動について知ってもらうため、「赤十字防災セミナー」を開催しています。本セミナーは、地域における啓発活動の一つとして位置付けられており、地区・分区や社会福祉協議会、自治会等において積極的に展開しています。

① 赤十字防災セミナー

内容	実施日	受講団体	参加者 (人)
災害への備え/エスノグラフィー	6/11	京都府連合婦人会	8 1
避難所体験	6/14	京都聖母学院中学校・高等学校	2 6
避難所体験	6/25	向日市教育部 生涯学習課	3 6
エスノグラフィー	7/2	華頂女子高等学校	1 3 6
災害への備え	7/30	日本労働組合総連合会京都府連合会	4 2
K A G	8/2	上京区赤十字奉仕団 中立分団	6 0
災害への備え/避難所体験	8/7	日本青年会議所近畿地区協議会 明るい近畿未来創造委員会	7
災害への備え/K A G	8/30	障害者就業・生活支援センター はびねす	2 0
災害への備え/避難所体験	9/9	城陽市中部地域包括支援センター	2 5
エスノグラフィー	9/20	森本区自治防災会	2 3
災害への備え	9/27	森本地区社会福祉協議会	2 5
エスノグラフィー	10/10	京丹波町立蒲生野中学校	4 7
災害への備え	10/22	株式会社KMCライフ	3 1
災害への備え/炊出し	1/16	京都府教育庁指導部社会教育課	1 0 3
災害への備え	1/25	寺田南校区防災推進委員会	5 2
災害への備え	2/6	日本赤十字社京都府支部左京区地区	2 8
災害への備え	2/8	千歳町自治会	1 9
災害への備え	2/18	しろ山ほほえみサロン (宮島老人会サロン)	1 5
災害への備え	2/28	京都刑務所	3 0
災害への備え	3/8	皆山自主防災会	5 0
避難所体験	3/12	日本赤十字社京都府支部右京区奉仕団	2 4

※KAG（家具安全対策ゲーム）：自宅の平面図を描くゲームを通じて、家具の安全対策理解し、身の安全を守る方法を学ぶ。

② 日本赤十字社防災教育事業における支部指導者数

日本赤十字社防災教育事業における指導者数	職員（人）	ボランティア（人）
	1 6	6 3

（５）救護、救援活動派遣実績

災害発生時の物資搬送や地域のマラソン大会などでの事故の発生に対応するため、医師、看護師等を派遣しています。

救護員の派遣実績（ボランティア派遣人員を含む）

内 容	実施日	場 所	派遣人員（人）
宇治川マラソン大会	2/22	宇治市（太陽が丘 他）	3 2
鳥インフルエンザ発生に伴う 救護班派遣	12/27～30	亀岡市	2 2

（６）救護資機材の整備

災害救護に必要な救護関係資機材は、移動手段として最も重要な車両整備をはじめ、最新の通信系機器やその他資機材の整備に努めました。

今後も、災害救護活動が迅速かつ円滑に展開できるよう、より一層、資機材の充実を図ることとしています。

資機材品目		保有数量	備考
救 護 車 両	救急車	4	第一、第二（２台）、舞鶴の各病院に常置
	装備車（トラック）	3	
	その他の救援車両	5	
除 染	除染設備（テント）	1	除染設備一式、特殊防護服は舞鶴に常置
	特殊防護服（レベルC）	4	
テ ン ト	エアー	1	
	パラソル	3 9	2 7 張は地区・分区に配備
	ドラッシュテント	3	
医療セット		3	第一、第二、舞鶴の各病院に常置
除細動器（ＡＥＤ 8 台を含む）		1 3	3 台のＡＥＤは救急車搭載用
発動発電機		1 8	4 台はドラッシュテントとエアテント用
担架（特殊を含む）		2 8	
衛星通信機器（車載用 2 台を含む）		1 1	
無 線 機	1 5 0 MHz	3 3	
	4 1 0 MHz	2 7	
	簡易業務無線	7	京都DMA Tとの通信用

※この他に、除染設備（テント）一式及び特殊防護服（レベルC）4着が京都第一、京都第二赤十病院のそれぞれに京都府から貸与されています。

(7) 災害救護用備蓄倉庫

地域	設置場所	形状
京都市	京都府支部内	敷地内倉庫等
	日赤京都救護活動センター (京都府赤十字血液センター内)	建物内
府北部	舞鶴赤十字病院敷地内	2階建独立建物
	京都府赤十字血液センター福知山出張所内	コンテナ倉庫
	綾部市消防本部敷地内	コンテナ倉庫
	亀岡市役所地下2階	庁舎内倉庫
	京丹波町役場敷地内	軽量鉄骨造
	伊根町役場敷地内	軽量鉄骨造
府南部	宇治市職員会館敷地内	コンテナ倉庫
	長岡京市スポーツセンター敷地内	コンテナ倉庫
	京都府長岡京市記念文化会館	軽量鉄骨造
	井手町役場敷地内	コンテナ倉庫
	宇治田原町役場敷地内	コンテナ倉庫
	精華町地域福祉センターかしのき苑敷地内	コンテナ倉庫

(8) 救援物資の配布と備蓄

南北に長い京都府の地理的条件から、災害時に即応するため、救援物資である毛布・緊急セットを府内全市町村の地区・分区に備蓄しているほか、令和7年度は伊根町に京都府支部の災害救護用倉庫を設置しました。災害救護用分置倉庫に救護資材及び救援物資を備蓄しています。

① 救援物資の配分状況 (京都府内分)

被害区分	被災世帯及び人員		毛布 配分数(枚)	緊急セット 配分数(個)	安眠セット 配分数(個)	タオルケット 配分数(枚)
	世帯数(世帯)	人員(人)				
住家全焼	29	62	44	26	27	13
住家全壊	1	2	0	0	2	0
住家流出	0	0	0	0	0	0
住家半焼	9	28	32	9	18	7
住家半壊	0	0	0	0	0	0
住家床上浸水	0	0	0	0	0	0
避難所	0	0	0	0	0	0

被害区分	被災世帯及び人員		毛布 配分数（枚）	緊急セット 配分数（個）	安眠セット 配分数（個）	タオルケット 配分数（枚）
	世帯数（世帯）	人員（人）				
その他	2 1	4 5	1 7	6	3 1	1 2
合計	6 0	1 3 7	9 3	4 1	7 8	3 2

② 救援物資の備蓄状況

場所	毛布（枚）	緊急セット（個）	安眠セット（個）	タオルケット（枚）
支部等の倉庫	4, 6 0 2	2, 3 7 4	1, 2 6 6	3, 1 2 9
地区・分区	2, 2 9 1	8 0 0	7 1 7	9 2 3
合計	6, 8 9 3	3, 1 7 4	1, 9 8 3	4, 0 5 2

（９）災害死亡見舞金の贈呈

令和７年度は、火災などの災害により死亡された１４名の方の遺族に、地区・分区を通じて見舞金を贈りました。

（令和８年３月３１日現在、京都府支部に申請のあった分）

１４件 １４名 ２８０, ０００円（１名あたり ２０, ０００円）

（１０）国内災害義援金

（令和８年３月末現在）

区分	京都府支部		
	令和７年度受付分		受付開始からの累計額
令和６年能登半島地震災害義援金	19件	2, 477, 740円	137, 058, 967円
令和６年９月能登半島大雨災害義援金	7件	144, 182円	1, 738, 203円
令和７年大船渡市赤崎町林野火災義援金	4件	577, 585円	1, 697, 600円
令和７年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	4件	18, 339円	18, 339円
令和７年台風第８号に伴う災害義援金	5件	24, 986円	24, 986円
令和７年８月６日から的大雨災害義援金	9件	50, 899円	50, 899円
令和７年台風第１２号災害義援金	4件	52, 581円	52, 581円
令和７年台風第１５号災害静岡県義援金	3件	21, 678円	21, 678円
令和７年台風第２２号及び第２３号災害義援金	1件	10, 000円	10, 000円
令和７年１１月１８日大分市佐賀関の大規模火災義援金	9件	136, 818円	136, 818円
令和７年青森県東方沖地震義援金	1件	10, 000円	10, 000円
合計	66件	3, 524, 808円	

2. 赤十字の各種講習

不慮の事故や急病に対する応急手当の方法や、家庭内での病気の予防や看護の方法などの知識と技術を身につけ、一人でも多くの方々に健康で幸せな生活を送っていただくために、救急法・水上安全法・健康生活支援講習・幼児安全法の講習を府内各地で実施したほか、講習の指導にあたる指導員の養成にも努めました。その実施状況は次のとおりです。

講習区分	資格講習				短期講習		合計	
	基礎講習		救急員等養成講習					
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
救急法	33	959	20	535	90	4, 092	143	5, 586
水上安全法			5	46	29	731	34	777
健康生活支援講習			4	87	16	294 (98)	20	381
幼児安全法			3	66	41	934	44	1, 000
合計	33	959	32	734	176	6, 051	241	7, 744

※この他に、雪上安全法の講習もありますが、京都府支部では実施していません。

※（ ）内は、災害時高齢者生活支援講習の受講者数

(1) 指導体制

講習名	支部職員	施設職員	ボランティア	合計人数
救急法	8	41	98	147
水上安全法	1	0	18	19
健康生活支援講習	2	31	5	38
幼児安全法	4	29	8	41

(2) 講習指導員関係講習会・研修会

講習会・研修会の名称	実施日	会場	参加者 (人)
赤十字幼児安全法講習講師研究会	7/16～17	本社	1
赤十字救急法指導員養成講習会	8/23 (事前研修) 9/6、7、13、14、15 (本講習) 10/18 (事後研修)	京都府支部	12
赤十字幼児安全法講師研修会	12/3～4	本社	3

講習会・研修会の名称	実施日	会 場	参加者 (人)
赤十字健康生活支援講習講師研修会	12/2～3	本社	3
赤十字健康生活支援講習指導員養成講習会	10/25 (事前研修) 11/20～24 (本講習) 1/10～11 (事後研修)	京都府支部	1 2
赤十字健康生活支援講習講師養成講習会	9/17～19	大阪府支部	1
赤十字幼児安全法指導員研修会	2/25、27	京都府支部	3 4
赤十字健康生活支援講習指導員研修会	2/25、27	京都府支部	2 4
赤十字水上安全法指導員研修会	2/8	左京区（京都踏水会 水泳学園）	1 2
赤十字救急法指導員研修会	2/15、16、17、21	京都府支部	1 0 1



救急法

～ 三角巾を使ったケガの手当 ～

3. 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の基盤となるべき重要な奉仕者の組織として、赤十字事業の推進を図るうえで欠くことのできない存在です。奉仕団の活動は、それぞれの地域に即した奉仕活動を行うために組織されたもので、日本赤十字社の地区・分区を中心として、一定の地域を単位として結成されています。

各奉仕団は、それぞれの特性を生かし、赤十字思想の普及・活動資金の募集・献血の推進・災害時に備えた救援活動や各種奉仕活動を行っています。

(1) 奉仕団登録状況

区分	団数 (団)	分団数 (団)	人数 (人)	備考
地域奉仕団	1 4	2 2 0	1, 3 5 5	京都市 1 1 団、綾部市 1 団、舞鶴市 1 団 ※休団中、城陽市 1 団
青年奉仕団	3	—	2 6 6	赤十字京都ユース37名 京一・京二看護学生奉仕団229名
特殊奉仕団	2	—	8 1	赤十字レスキューチェーン京都 58名 青少年赤十字賛助奉仕団 23名

(2) 奉仕団活動状況

① 赤十字レスキューチェーン京都

行事名	実施日	会 場	参加者 (人)
赤十字無線救護奉仕団 第4ブロック連絡協議会役員会	4/5	大阪府支部	2
支部管内合同訓練	5/10	京都府支部	2
第4ブロック合同災害救護訓練	6/7	大阪府 (高槻赤十字病院ほか)	4
京都府総合防災訓練	8/31	宮津市 (海洋高校ほか)	3
福知山市地域防災訓練	8/31	福知山市 (由良川河川敷)	2
市制70周年記念亀岡市総合防災訓練	9/6	亀岡市 (亀岡市防災広場)	2
宇治市総合防災訓練	10/19	宇治市 (南部小学校)	5
宇治田原町総合防災訓練	10/26	宇治田原町 (宇治田原中央公園)	2
京都市総合防災訓練	11/1	左京区 (岡崎公園一帯)	5
救護班要員基礎研修	12/21	京都第一赤十字病院	2
長岡京市防災フェスタ	1/18	長岡京市 (中央公民館)	2
支部管内合同訓練	2/7	京都府支部	1
宇治川マラソン大会	2/22	宇治市 (太陽が丘 他)	1 6
合計			4 8

② 赤十字京都ユース(RCY)

行事名	実施日	会 場	参加者 (人)
第4ブロック青年赤十字奉仕団協議会 代表者会議	5/25	奈良県支部	1
HIV/AIDSピア・リーダー養成研修会	9/21	京都府支部 ハイブリッド開催	8
京都府青年赤十字奉仕団基礎研修会	10/12	京都府支部	6
青年赤十字奉仕団第4ブロックリーダー 養成研修会	11/15～16	大和郡山市南部公民館	5
京都市はたちを祝う記念式典の ボランティア活動	1/12	左京区（京都市勧業館 みやこめっせ）	7
第36回全国車いす駅伝競走大会	3/7～8	右京区（西京極総合運 動公園）他	12
合 計			39

③ 青少年赤十字賛助奉仕団

行事名	実施日	会 場	参加者 (人)
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会 第1回役員会・総会	7/7～9	本社	1
京都府青少年赤十字賛助奉仕団総会	9/4	京都府支部	10
第4ブロック支部 青少年赤十字賛助奉仕団交流研修会	10/23～24	兵庫県支部	6
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会 第2回総会	3/10～11	本社	1

（３）施設奉仕活動状況

奉仕団名	活動内容	活動日	会 場	活動延人数 (人)
南区奉仕団婦人部	児童福祉施設の子どもたちと の交流	3/26、27	京都府支部	37

（４）赤十字奉仕団指導講師の活動状況

①指導講師 5名

②活動状況

活動内容	実施日	会 場	参加者 (人)
京都府青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング ・センター小学生の部	7/26、27	京都府支部	2
京都府青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング ・センター中学生の部	7/31、8/1	京都府支部	3
京都府青年赤十字奉仕団基礎研修会	10/12	京都府支部	1

活動内容	実施日	会 場	参加者（人）
青年赤十字奉仕団第4ブロックリーダー養成研修会	11/15～16	奈良県 （大和郡山市南部公民館）	1
赤十字奉仕団指導講師研修会	2/13～15	本社	1

4. 青少年赤十字（JRC）

将来の赤十字の担い手を育成する青少年赤十字活動を展開し、その強化を図るため、京都府・京都市並びに各市町村の教育委員会、青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団等の協力を得て、子どもたちが赤十字の精神を理解し、日常生活の中で望ましい人格を育てることができるよう、学校教育の中で取り組まれています。

（１）加盟校とメンバー数

区分	幼稚園・保育園 認定こども園	小学校	中学校	義務教育校	高校	合計
加盟校数 （校）	19	178	18	10	8	233
メンバー数 （人）	1,200	62,505	5,848	3,897	78	73,528

（２）リーダーシップ・トレーニング・センター

区分	実施日	参加者（人）	会場
小学生の部	7/26、27	18	京都府支部
中学生の部	7/31、8/1	7	京都府支部
高校生の部	8/4、5	34	京都府支部

（３）研修会の実施

研修名	実施日	会場	参加者 （人）
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会	5/29～31	東京都 （国立オリンピック記念 青少年総合センター）	2
救急法基礎講習（JRC高校生メンバー）	8/6	京都府支部	47
救急法救急員養成講習（JRC高校生メンバー）	8/7、8	京都府支部	25
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	7/4	本社	1
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター事前研修会 （指導者研修）	7/22	京都府支部	9
青少年赤十字研究会	8/6	本社	2

研修名	実施日	会場	参加者 (人)
第4（近畿）ブロック青少年赤十字指導者研修会	9/15	大阪・関西万博	5
全国JRC国際交流集会、事前スタッフ会議	9/15、10/19 10/29～11/3	本社、東京都 (国立オリンピック記念 青少年総合センター)	1
全国JRC国際交流集会	10/30～11/3	東京都 (国立オリンピック記念 青少年総合センター)	1
青少年赤十字スタディー・センター	3/22～26	山梨県（東照館）	2

（４）青少年赤十字国際交流事業

令和7年10月25日（土）から30日（木）までの期間、ラオス赤十字社青少年赤十字高校生メンバー2名を受け入れ、京都府内JRC高校生メンバーとの交流を行いました。



青少年赤十字国際交流プログラム

～ JRCメンバー（高校生、小学生）との交流 ～

(5) 青少年赤十字モデル事業

テーマ・内容
【京都市立桃山東小学校】 健康・安全：主体的に学ぶ防災教育の実践 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用し、全学年で防災教育を中心とした健康・安全の取組を進め、児童が災害や事故を自分事として捉え、「守られる命」から「自ら守る命」へと意識を高めることを目指しました。 児童による校内の安全点検や、高学年が低学年を見守る避難訓練、地域の自主防災会と連携した訓練を通して、主体的に行動する力と地域防災への関心を育みました。 また、水上安全法や救急法の体験講習を通して、自分や他者の命を守る方法を学ぶ機会を設けました。これらの取組から児童の防災意識や命を大切にする態度の向上が見られました。
【京都市立北醍醐小学校】 健康・安全：学年間交流を生かした安全教育の取組 健康と学校安全を柱に、生活安全・交通安全・災害安全の視点から安全教育を行いました。たてわり活動を生かし、学年を超えた関わりの中で、安全への意識を高める取組を進めました。 児童会によるロング昼休みの活動や体力づくり、保健委員会によるけが予防体操動画の配信、なわとび大会、登山活動などを通して、健康への関心と安全に体を動かす態度の育成につながりました。 また、近隣高校と連携した安全・防災体験学習により、実体験を通して防災について学ぶ機会を設け、健康で安全な生活を送ろうとする意識を育む取組となりました。
【京都市立楊梅幼稚園】 健康・安全：日常生活に根差した安全指導の推進 毎月15日を安全指導日とし、日常生活に即した安全指導を継続的に行いました。火災や地震、風水害を想定した避難訓練を通して、自分の命を守る行動を身に付けることを目指しました。 また、体重測定之机をを活用した保健指導や、園だよりやほけんだよりによる家庭への情報発信を通して、健康と安全への関心を高めました。 園外保育では、交通安全を実践的に学び、5歳児は警察や地域と連携して親子で交通安全について学ぶ機会も設けました。これらの取組を通して、幼児期から命を大切し、安全に行動しようとする意識を育むことができました。



小学校における防災学習

～避難する時に何を持って逃げればよい？～



小学生と高校生による防災学習

～「非常用持出品」について意見交換～

(6) 活動状況

行事名	実施日	会場等	参加者（人）
京都府青少年赤十字指導者協議会役員会	4/21	京都府支部	7
京都府青少年赤十字指導者協議会総会	6/2	京都府支部	15
第1回京都府青少年赤十字高校生メンバー協議会	5/31	京都府支部	41
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター事前研修会 （指導者研修）	7/12	京都府支部	9
児童福祉施設児童との交流を目的としたJRC夏祭り	8/21	京都府支部	28
令和7年度青少年赤十字国際交流 （京都受入プログラム）	10/25～30	京都府支部	43
ふれあいバスケット（子ども体験教室）	12/5	陵ヶ岡小学校	14
「NHK海外助け合い」街頭啓発募金キャンペーン	12/14	四条河原町周辺	38
京都市青少年赤十字研究会による防災教室	1/23	桃山東小学校	31
全国車いす駅伝競走大会	3/8～9	京都市内	18



JRC夏祭り
～ 児童福祉施設児童との交流 ～



ふれあいバスケット
～ 車いすバスケットボール体験 ～

(7) 各校における活動状況

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。

- ・救急法や防災セミナー、避難訓練など
- ・献血推進活動（献血ルームでの呼びかけや献血セミナーなど）
- ・募金活動（災害義援金や国際救援金、赤十字活動資金など）
- ・文化祭でのバザーや啓発活動（紛争、災害、献血など）
- ・清掃活動や環境保全活動（使用済みカイロの回収など）
- ・福祉施設や児童館への訪問、地域住民との交流活動

5. 医 療 事 業

京都第一、京都第二及び舞鶴赤十字病院は地域における中核医療機関として地域医療に積極的に貢献しており、昨今の医療情勢は厳しい状況にありますが、医療の質の向上並びに医療設備の充実強化を図り、経営の安定と機能の充実に努めています。

更に、赤十字病院の使命に鑑み、日頃から医師や看護師等を救護班要員として登録し、災害発生時には、救護班要員を被災地に緊急派遣するなど、迅速な医療救護活動が展開できる体制を取っています。

（１）京都第一赤十字病院

令和7年度の病院のスローガンは、「京都で一番の基幹病院を目指す」としています。我々は日本赤十字病院グループの理念のもと、災害医療・救急医療・地域医療において人間の命と健康、尊厳を守り、赤十字思想の普及啓発に努めることを使命と考えています。主な人事異動としましては、令和8年4月1日付で院長補佐兼消化器内科部長の佐藤秀樹及び院長補佐兼消化器外科部長の岡本和真が副院長に就任しました。また、看護部長の蘆田美栄が退任し、看護副部長の田中由美子が看護部長に就任しました。



京都第一赤十字病院

さて、当院の使命である高難度・低侵襲手術への対応強化のため、令和6年10月から手術室を10室から12室に増室しました。その結果、手術間のインターバルが削減され、手術件数が増加しています。特に、増室した2室をロボット手術センターとして活用しているため、ロボット支援下手術の件数も増加しています。しかしながら、現在は手術支援ロボットが1台しかなく、手術待機患者が多いため、手術支援ロボットの追加購入が課題となっています。

また、令和5年度にNICU（新生児集中治療室）・GCU（一般新生児ケアユニット）の移転・拡充を行ったことにより新生児の治療環境が整い、総合周産期母子医療センターとしての役割を果たしています。しかしながら、医師数が限られているために医師の過重労働が避けられない状況となっており、働き方改革を進めるうえでその解決が喫緊の課題となっています。

救命救急センターに指定されている当院は断らない救急を目指しており、救急要請の不应需件数は格段に減少して、令和7年の救急車受け入れ台数は7,000台を超えました。

その結果、令和7年度の1日平均入院病床稼働数は506.2人（前年度498.4人）と増加し、医業収益は6.6億円増の252.0億円と改善しました。医業費用は、退職給付引当金の決算整理を含めると14.3億円増の249.8億円となり、医業収支はプラス2.15億円となりましたが、退職給付引当金の決算整理を除くと、材料費や給与費の高騰もあり、医業収支はマイナス14.4億円と、昨年度より約7.0億円の悪化となり、厳しい状況が続いています。各種補助金等を加えた病院総収支についても同様に、退職給付引当金の決算整理を除けば12.7億円の赤字となりました。

今年度も経費削減などの経営改善を図り、京都での高度急性期医療を担う基幹病院としての役割を全うしてまいります。

（２）京都第二赤十字病院

当院はこれまで、地域における中核的な高度急性期医療、救急医療、災害医療を担い、地域医療の発展に貢献してきました。令和７年度は、将来を見据えた新病院整備に向けて基本計画の策定に着手し、新たな一步を踏み出す重要な年度となりました。老朽化・狭隘化した施設環境の改善はもとより、高度化・多様化する医療需要への対応、災害時における医療機能の強化、患者サービスの向上を図るうえでも、新病院整備は極めて重要な取組です。今後も、地域の医療機関や関係機関との連携を一層深め、将来にわたり必要とされる病院づくりを進めてまいります。



京都第二赤十字病院

一方、経営面では、収益に一定の改善傾向が見られるものの、それを上回る費用増加により、依然として厳しい状況が続いています。給与改定や離職率低下に伴う職員数増加による人件費上昇に加え、物価高騰の影響を受けた材料費、委託費、各種経費も大幅に増加しており、実効性の高い経営改善への取組が喫緊の課題となっています。

令和７年度決算では、医業収支が１．８億円の赤字、病院総収支が３．５億円の黒字となりました。これは、本社における退職給付債務の算出方法変更により、１５億円の費用戻入が発生したことが主因です。一方、この特殊要因を除いた実質収支では、医業収支１６．２億円、病院総収支１１．５億円の赤字となり、前年度を上回る厳しい結果となりました。

令和８年度は、新病院整備の具体化を着実に進めるとともに、病院運営の持続に向けた現金収支の改善を最重要課題として取り組むこととしており、収益力の強化と支出構造の見直しを進め、安定した経営基盤の確立を目指します。こうした中、当院は創立１００周年という節目の年を迎えます。これまで支えてくださった地域の皆さまや関係機関、諸先輩方への感謝の思いを胸に、築き上げてきた歴史と信頼を次の世代へつなぎ、新たな１００年に向けて力強く歩みを進めてまいります。

（３）舞鶴赤十字病院

当院は、舞鶴市において、急性期から回復期、さらには在宅復帰支援までを担う地域の中核的な医療機関として、地域の皆様の健康と安心を支える役割を果たしています。高齢化の進展や疾病構造の変化により医療ニーズが多様化する中、救急医療や入院医療を中心に、切れ目のない医療提供体制の維持と質の向上に努めています。



舞鶴赤十字病院

令和７年度は、耳鼻咽喉科の常勤医師を新たに迎えたことで外来診療体制が強化され、これまで以上に幅広い症状に対応できる環境が整いました。これにより外来患者数も増加し、地域の皆さまにとってより身近で利用しやすい医療機関としての機能向上につながりました。一方で、リハビリテーション科医師の休職により、回復期リハビリテーション病棟の運営に影響が生じ、患者さんの受け入れ体制に制約が出るなど、課題も残る一年となりました。

入院医療においては、急性期医療のさらなる充実を図り、手術や専門的治療を必要とする患者さんに対して適切かつ迅速に対応できる体制の強化を進めました。地域の医療機関や介護施設との連携も重視し、患者さんの状態に応じた円滑な受け入れと退院支援に取り組んでいます。

また、院内では経営改善委員会を継続的に開催し、医療スタッフと事務部門が一体となって病床管理の適正化に取り組みました。これにより、病床稼働の効率化を図るとともに、限られた医療資源を最大限に活用しながら、安定した医療提供体制の維持に努めています。回復期リハビリテーション病棟においても、厳しい状況の中で施設基準を維持し、在宅復帰に向けた支援機能を継続することで、地域包括ケアシステムの一翼を担い続けています。

経営面では、医療材料費の高騰や人件費の増加など、医療機関を取り巻く環境が一層厳しさを増す中にありましたが、診療体制の充実や業務の見直し、各種補助制度の活用などを通じて、安定した運営の維持に努めました。こうした取組の積み重ねにより、持続可能な病院経営に向けた基盤づくりを進めています。

今後も舞鶴赤十字病院は、舞鶴市における地域医療の中核としての役割を大切にしながら、医療の質と安全性の向上に取り組んでまいります。特に課題となっている回復期リハビリテーション機能の充実や医師確保を進めるとともに、地域の医療機関や関係機関との連携をさらに深め、住み慣れた地域で安心して医療を受けられる体制づくりに貢献していきます。

地域の皆さまに信頼され、選ばれる病院であり続けるため、職員一同、引き続き努力を重ねてまいります。

医療施設の概要

	病床数		診療科目	職員数（人）				入院患者数（人）		外来患者数（人）	
	許可	稼働		医師	看護師	他	計	延数	一日平均	延数	一日平均
京都第一赤十字病院	602	600	リウマチ内科、総合内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、消化器内科、循環器内科、脳神経・脳卒中科、呼吸器内科、腎臓内科・腎不全科、消化器外科、肝胆膵外科、乳腺外科、小児外科、呼吸器外科、形成外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、小児科、新生児科、産婦人科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、精神科、放射線診断科、放射線治療科、歯科口腔外科、麻酔科、集中治療科、救急科、健診科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、病理診断科	377	773	478	1,628	184,780	506	272,479	1,135
京都第二赤十字病院	657	528	総合内科（内科）、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科、脳神経内科（神経内科）、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、気管食道外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、こころの医療科（精神科）、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科	354	726	489	1,569	158,433	434.1	280,376	1,163.4
舞鶴赤十字病院	188	155	内科・消化器内科・神経内科・小児科・外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科	16	118	114	248	43,934	120	80,190	331

注）病床数・職員数は令和8年3月31日現在、患者数は令和7年度実績

6. 健康相談など医療社会事業

各赤十字病院においては、生活困窮者等の医療援護、訪問看護、検診活動、健康診断などの各種医療社会事業を実施し、併せて社会福祉団体等の依頼により、医師、看護師等の派遣事業を実施しています。

区分	件数	延日数	延派遣職員			
			医師	看護師	その他	計
京都第一赤十字病院	10	10	8	4	1	13
京都第二赤十字病院	13	24	7	30	1	38
舞鶴赤十字病院	15	15	2	9	6	17
合計	38	49	17	43	8	68

7. 看護師の養成

日本赤十字社の看護師養成は、約130年の歴史を有し、看護に関する幅広い能力を備えた赤十字看護師として、保健医療活動をはじめ災害救護活動、国際救援活動など広く社会に貢献できる人材の育成を行っています。

京都府支部における養成状況は次のとおりです。

(1) 養成施設及び学生数

(令和8年3月31日現在)

学校名	1年	2年	3年	合計人数
京都第一赤十字看護専門学校	38 (0)	46 (4)	39 (0)	123 (4)
京都第二赤十字看護専門学校	25 (1)	36 (1)	41 (6)	102 (8)
合計	63 (1)	82 (5)	80 (6)	225 (12)

() は男子学生の内数です。

(2) 進路等の状況 (令和7年度)

学校名	所属病院	進学	その他	合計人数
京都第一赤十字看護専門学校	27	5	4	36
京都第二赤十字看護専門学校	33	2	4	39
合計	60	7	8	75

8. 血液事業

献血者の皆様をはじめ、献血推進にご尽力いただいた府民、並びに各種団体のご理解とご協力を得て、令和7年度献血者数は108,745人となり、管内医療機関への輸血用血液製剤の供給が滞りなく行われました。

また、広く府民の皆様に献血へのご協力を得られるよう、SNSを始めとした様々な広報媒体を活用することで、血液事業に対する理解を促すとともに、献血Web会員サービス（ラブラッド）の会員登録および献血予約を推進し、ご協力いただきやすい環境づくりに取り組んでいます。

（１）令和7年度 献血状況

献血方法別	京都府		全 国	
	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)
血漿献血	18,403	16.9	993,773	19.9
血小板献血	14,627	13.5	573,176	11.5
400mL献血	74,532	68.5	3,301,265	65.9
200mL献血	1,183	1.1	133,020	2.7
合 計	108,745	100	5,001,234	100

（２）令和7年度 供給状況（単位換算）

製剤別	京都府		全 国	
	単位	構成比(%)	単位	構成比(%)
全 血	0	0	0	0
赤血球	149,728	34.0	6,522,040	37.2
血 漿	59,409	13.5	2,153,452	12.3
血小板	230,890	52.5	8,840,785	50.5
合 計	440,027	100	17,516,277	100

※単位換算とは、200mL献血由来を1単位として換算したもの。



医療機関からの要請により、
輸血用血液製剤を届ける様子



初献血の高校生

（３）若年層献血者確保対策

今後の輸血医療を支えていく若年層（特に小中高生）を対象に献血セミナーを開催し、将来の献血者となるよう啓発に努めています。職員が会場に出向く出前形式や、インターネットを活用したオンライン形式等、皆様のニーズに応じた形で実施しています。

また、献血のご協力が減少しがちな冬季のイベントとして、１２月に「全国学生献血クリスマスキャンペーン」を全国的に実施しました。京都府でも京都府学生献血推進協議会のメンバーが、若者を中心に広く府民への献血の協力を呼びかけました。



こども献血ツアー

～血液を見学する子どもたち～



京都府学生献血推進協議会による
全国学生献血クリスマスキャンペーンの様子

9. 国際活動

日本赤十字社は、国際赤十字の一員として各国の赤十字社・赤新月社やジュネーブにある赤十字の国際機関とともに国際救援活動を行っています。

各国の赤十字社は互いに協力しながら活動を続けており、京都府支部においても救援金の受付や救援事業等を行いました。

(1) 海外救援金

① 海外救援金（令和8年3月末現在）

区分	京都府支部		
	令和7年度受付分		受付開始からの累計額
中東人道危機救援金	2件	16,000円	1,581,370円
バングラデシュ南部避難民救援金	1件	247円	2,552,474円
ウクライナ人道危機救援金	5件	61,500円	53,152,539円
2025年ミャンマー地震救援金	11件	2,446,695円	2,446,695円
2025年アフガニスタン地震救援金	1件	10,000円	10,000円
2025年パキスタン洪水救援金	1件	10,000円	10,000円
海外無指定救援金	3件	52,000円	3,445,123円
合計	24件	2,596,442円	

② 「第43回NHK海外たすけあい」寄付金（期間 令和7年12月1日～25日）

取扱窓口	京 都 府	全 国
支 部	779,397円	39,851,537円
N H K	463,390円	17,777,772円
銀 行 等	215,000円	27,572,538円
本社(郵便局含む)		787,121,849円
合 計	1,457,787円	872,323,696円



NHK海外たすけあい街頭募金活動

③ 青少年赤十字海外支援事業

日本赤十字社の青少年赤十字海外支援事業として実施し、ネパール赤十字社における水や衛生設備の整備事業及びバヌアツ赤十字社における子どもたちの防災教育事業資金に充当しました。

日赤京都府支部有功会の国際援助協力事業 30,000円

（２）支部国際活動参加事業

日本赤十字社では、アジア・大洋州地域における災害対策事業の一環として、救急法等の講習普及支援を平成16年度から実施しています。京都府支部はラオス赤十字社に対し、1,000,000円の資金協力を行いました。

（３）研修会

研修名	日時	形態	参加人数
令和7年度日本赤十字社第4ブロック 合同国際人道法普及研修	1/28	オンライン	3
令和7年度国際人道普及セミナー	2/17～18	オンライン	1

10. 社員（支援者）増強と社資（活動資金）募集

日本赤十字社は、赤十字の基本理念である人道の精神に基づき、国内はもとより全世界の平和と福祉の増進のため、各種の事業活動が続けていますが、これらの活動のための事業資金は、赤十字運動の支援者の皆様から寄せられる活動資金が財源となっています。

毎年5月の「赤十字運動月間」を中心に、府民の皆様のご支援に加え、地区・分区をはじめ、赤十字奉仕団、協賛委員、有功会等関係者の皆様から積極的なご協力をいただいた結果、令和7年度は297,802,603円もの活動資金へのご寄付をいただきました。なお、口座振替やクレジットカード決済等による活動資金募集については、2,598件 23,328,548円のご寄付があり、ご協力いただいた方が居住されている地区の実績額に加算しています。

また、広く寄付を募るためのDM（ダイレクトメール）を個人・法人の皆様宛てに送付するほか、遺贈・相続財産からご寄付をいただけるよう、京都司法書士会と共同で、令和7年11月に「相続・遺言セミナー」を開催しました。

今後とも、時代に見合った参加しやすい環境を整備し、一層皆様のご理解を得て、支援者の増強と活動資金の増収に向け、取組を推進してまいります。

(1) 活動資金収納状況

(各年3月末現在)

区分		令和7年度(円)	令和6年度(円)	対前年度比較(%)
地区扱い	京都市	97,507,654	98,344,375	99.1%
	府内14市	55,745,837	74,727,630	74.6%
	府内町村	10,613,360	10,960,498	96.8%
	小計	163,866,851	184,032,503	89.0%
支部扱い		133,935,752	190,738,234	70.2%
合計		297,802,603	374,770,737	79.5%

※個人住民税控除適用海外救援金を除く

(2) 会員数(※)

(各年3月末現在)

区分		令和7年度			令和6年度		
		個人	法人	合計	個人	法人	合計
地区扱い	京都市	283	78	361	343	56	399
	府内14市	82	13	95	119	12	131
	府内町村	12	0	12	15	0	15
	小計	377	91	468	477	68	545
支部扱い		1,950	358	2,308	1,449	288	1,737
合計		2,327	449	2,776	1,926	356	2,282

※年額2,000円以上を寄付の上、会員登録いただいた方

(3) 社資功労表彰件数

(令和8年3月末現在)

表彰名	件数
日本赤十字社長感謝状	24
金色有功章	23
銀色有功章	10
日本赤十字社京都府支部長感謝状	24

地 区 別 実 績 額

【単位：円】

京都市内 地区	金額
北 区	7, 577, 130
上京区	7, 401, 750
左京区	10, 739, 032
中京区	9, 629, 078
東山区	3, 872, 905
山科区	7, 935, 295
下京区	11, 626, 562
南 区	11, 212, 241
右京区	11, 325, 965
西京区	6, 776, 310
伏見区	9, 411, 386
合計①	97, 507, 654

広域振興局 地区	金額
山城（乙訓）	746, 068
山城（山城北）	2, 450, 567
山城（山城南）	2, 479, 694
南 丹	2, 169, 104
丹 後	2, 767, 927
合計③	10, 613, 360
地区計（①＋②＋③）	163, 866, 851
支部扱い	133, 935, 752
合計	297, 802, 603

京都府内 地区	金額
宇治市	5, 704, 542
亀岡市	7, 161, 805
綾部市	2, 302, 416
福知山市	5, 823, 025
宮津市	1, 504, 294
舞鶴市	5, 261, 213
城陽市	3, 833, 761
向日市	2, 035, 118
長岡京市	2, 799, 790
八幡市	2, 162, 622
京田辺市	3, 462, 665
京丹後市	6, 129, 691
南丹市	3, 558, 400
木津川市	4, 006, 495
合計②	55, 745, 837

1 1. 赤十字思想の普及・広報活動

(1) 赤十字月間キャンペーンの実施

5月1日は、日本赤十字社の前身である「博愛社」が創設された日であり、5月8日の「世界赤十字デー」は、赤十字社の創設者であるアンリー・デュナンの生誕の日です。こうした歴史的な日のある5月を毎年『赤十字運動月間』として、赤十字活動へのご理解とご協力を呼びかけています。京都府支部においても、赤十字の活動について一人でも多くの皆様の理解と協力をいただくための取組を行いました。

(2) イベント・キャンペーン開催・参加状況

名称	実施日	場所
ほり川まつり	5/31	堀川商店街
上京の子どもまつり2025	6/1	京都市立仁和小学校
お仕事体験inイオンモール久御山	8/3	イオンモール久御山
ブルーフェスタ2025	9/14	舞鶴港第3埠頭
東山区民ふれあいひろば2025	9/21	東山区総合庁舎
右京区民ふれあい文化フェスティバル	10/25	太秦安井公園
中京区民ふれあいまつり2025	10/26	京都市立中京中学校
上京区民ふれあいまつり2025	10/26	上京区総合庁舎
伏見区ふれあいプラザ2025	11/2	伏見区総合庁舎
令和7年度府民交流フェスタ	11/3	京都府立植物園
京都第一赤十字病院フェスティバル	11/8	京都第一赤十字病院
ふれあい“やましな”2025区民まつり	11/23	山科中央公園
左京区民ふれあいまつり2025	11/30	左京区総合庁舎
令和7年度下京区総合防災訓練	12/7	北総合支援学校中央分校
第7回東本願寺前マルシェ	3/1	お東さん広場



お仕事体験
inイオンモール久御山
～無線体験～



令和7年度府民交流フェスタ
～救急法体験～



第7回東本願寺前マルシェ
～救急車の乗車体験～

(3) 広報活動の展開

広報内容	期間	場所	備考
各戸チラシの配布	4～5月	府内全域	地区・分区を通じて配布
市民しんぶん等による広報	4～5月	各地域での啓発	地区に依頼
ポスターの掲示	5月	J R 西日本 京都市営地下鉄 阪急電鉄	
レッドライトアッププロジェクト	5月	元離宮二条城 京都府庁旧本館 京都市役所本庁舎 舞鶴赤十字病院 京都府赤十字血液センター	
デジタルサイネージ	5月	京都市役所前駅	
広報紙「赤十字きょうと 令和6年京都府赤十字大会 号」の発行	5月	会員等に送付	
広報紙「赤十字きょうと」 の発行	12月	会員等に送付	
広報誌「赤十字きょうと ミニ」の発行	2月	DM（ダイレクトメール）に同封	
テレビCM	通年	KBS京都、京丹波町ケーブル テレビ、KCN京都、笠置町ケ ーブルテレビ、KCNなんたん	
ラジオCM	通年	エフエム京都、FMうじ、FM いかる、FMまいづる	
パネル展示	4/28～5/17	右京区役所	
	5/13～17	左京区役所	
	9/4～5	京都府立嵯峨野高等学校	
	9/11～14	北区 鷹峯学区	
	10/12	せいか祭り	

（４）SNS活動の展開

より多くの方に日本赤十字社の活動を知っていただくため、ソーシャルメディアを活用して積極的に情報を発信するとともに、日本赤十字社に対するご意見等を収集しています。ホームページやフェイスブックの運用、また、令和7年2月にアカウントを開設した公式Instagramにおいて、マスコットキャラクターである「ハートラちゃん」が日々の活動を紹介する動画等を投稿し、幅広い年齢層に向けた情報発信に取り組みました。

（５）「大阪・関西万博」赤十字パビリオンの出展

令和7年4月13日～10月13日まで大阪の夢洲で開催された2025年大阪・関西万博において、「国際赤十字・赤新月運動館」を出展いたしました。本パビリオンは、「人間を救うのは、人間だ。～The Power of Humanity～」をコンセプトに、世界各地で発生する紛争や災害などの人道危機と、それに立ち向かう赤十字の人道活動を体感的に伝えることを目的としたもので、184日間で31万人超が来場されました。京都府支部管内各施設からも、パビリオンの運営スタッフとして94名が派遣され、会期中の運営を担いました。

（参考）派遣人数の内訳

施設名	派遣人数
京都府支部	11
京都第一赤十字病院	29
京都第二赤十字病院	29
舞鶴赤十字病院	5
京都府赤十字血液センター	20
合計	94



「国際赤十字・赤新月運動館」
～メッセージを投稿する来場者～



東日本大震災発生時、
石巻赤十字病院に掲げられた旗の展示

(6) 学校、病院等における講義・研修

名称	実施日	内容	備考
京都第一赤十字病院 新入職員研修会 赤十字概論	4/3	赤十字のなりたち、標章、国際人道法、 日本赤十字社について、国際赤十字につ いて	対面講義
京都第一赤十字病院 新入看護職員研修 赤十字概論Ⅱ	4/9	ケニア地域保健強化事業報告、バングラ デシュ南部避難民保健医療支援事業報 告、ラオス赤十字社救急法普及支援事業 派遣報告	対面講義
京都第一赤十字看護専門学校 災害看護論	4/18	基礎行動、無線機の取り扱い	対面演習
京都第一赤十字看護専門学校 施設見学	4/23	支部の事業、救援物資など	対面演習
日本赤十字東北看護大学 国際看護学	5/19	赤十字の国際活動（ケニア地域保健強化 事業、バングラデシュ南部避難民保健医 療支援事業、ラオス赤十字社救急法普及 支援事業）	WEB形式
京都第二赤十字看護専門学校 災害医療論（災害救護）	5/27	日本赤十字社と支部の役割と活動、日本赤 十字社の救護活動（法的根拠、救護活動の 範囲）、支部の事業	対面講義
京都第二赤十字看護専門学校 災害医療論（国際活動）	6/9	ケニア地域保健強化事業、バングラデシ ュ南部避難民保健医療支援事業、ラオス 赤十字社救急法普及支援事業）	対面講義
京都府災害時学校支援チーム （チーム員養成研修）	6/17	支援者としての留意点	対面講義
京都第一赤十字看護専門学校 グローバルヘルス	7/1～ 10/1 (5回)	グローバルヘルスの概念、国際協力の基 礎知識、国際協力と看護、国際救援と看 護、国際協力の課題	対面講義
京都第一赤十字病院 グローバルヘルスⅠ	8/5	グローバルヘルスとは、健康に影響を及 ぼす要因、グローバルヘルスに関する概 念、国内外の健康問題とヘルスケアシス テム、多文化理解とヘルスケア	対面講義
京都第一赤十字病院 グローバルヘルスⅡ	8/18	健康に影響を及ぼす要因、日本赤十字社 の国際事業、グローバルヘルスに関する 概念、国内外の健康問題、多文化理解と ヘルスケア	対面講義
京都第一赤十字看護専門学校 看護学概論（国際看護）	9/18	国際看護とは、国際的な健康問題、国際 協力のしくみ、国際看護活動の展開、日 本に在留する外国人の看護、異文化理解	対面講義
京都第一赤十字病院 グローバルヘルスⅢ	10/7	健康に影響を及ぼす要因、日本赤十字社 の国際事業、国内外の健康問題、多文化 理解とヘルスケア、訪日・在留外国人と 健康及び災害への対応	対面講義
京都第一赤十字看護専門学校 災害看護論	1/14	トリアージ、救護所演習	対面演習

令和 7 年度の主な行事

赤十字大会の開催

項目	期日	場所	参会者数
全国赤十字大会	5 月 1 3 日 (火)	東京都・明治神宮会館	3 6

評議員会

実施日	場 所	議 案
6 月 2 0 日 (金)	京都府支部	支部・施設の令和 6 年度決算等
2 月 1 0 日 (火)	京都府支部	支部・施設の令和 8 年度予算等

業務・会計監査

実施日	対象施設
6 月 6 日 (金)	京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院、舞鶴赤十字病院、 京都府赤十字血液センター、京都府支部

その他行事

実施日	内容	開催場所等
5 月 1 日 (木) ～ 3 1 日 (土)	赤十字運動月間	京都府内一円
6 月 7 日 (土)	第 4 ブロック 合同災害救護訓練	大阪府
8 月 3 1 日 (日)	京都府総合防災訓練	宮津市
1 0 月 3 日 (水)	日赤紺綬・有功会会長協議会総会	佐賀県
1 0 月 2 7 日 (月)	有功会総会	京都市下京区
1 1 月 1 日 (土)	京都市総合防災訓練	京都市左京区
1 2 月 1 日 (月) ～ 2 5 日 (木)	「NHK 海外たすけあい」運動	京都府内一円
1 2 月 1 3 日 (土) ～ 1 4 日 (日)	「NHK 海外たすけあい」街頭募金 キャンペーン	京都市下京区

表 彰

表章区分		表章基準	個人 (人)	法人 (社・団体)	合計
活動資金	紺 綬 褒 章	500 万円以上（個人） 1,000 万円以上（法人）	8	0	8
	厚生労働大臣感謝状	100 万円以上 500 万円未満（個人）	1 1	1	1 2
		300 万円以上 1,000 万円未満（法人）			
	社資功労感謝状	金色有功章受章後 50 万円以上	1 5	9	2 4
	金 色 有 功 章	50 万円以上	1 9	4	2 3
	銀 色 有 功 章	20 万円以上	6	4	1 0
	支 部 長 感 謝 状	10 万円以上	1 8	6	2 4
	小計		7 7	2 4	1 0 1
役 職	金 色 有 功 章	在職年数 6 年以上 他	2	0	2
	銀 色 有 功 章	在職年数 3 年以上 他	1 1	0	1 1
	小計		1 3	0	1 3
奉仕団員等奉仕者	業務功労感謝状	金色有功章受章後 活動年数 10 年以上	3	0	3
	金 色 有 功 章	活動年数 20 年以上	1 9	0	1 9
	銀 色 有 功 章	活動年数 15 年以上	1 8	0	1 8
	支 部 長 感 謝 状 2	活動年数 10 年以上	2 7	0	2 7
	支 部 長 感 謝 状 1	活動年数 5 年以上	3 1	0	3 1
	小計		9 8	0	9 8

役 職 員 名 簿

(令和8年6月1日現在)

京都府支部

支 部 長	西 脇 隆 俊
副 支 部 長	小 石 原 範 和
〃	中 小 路 健 吾
〃	吉 本 秀 樹
監 査 委 員	武 田 盛 治
〃	渡 邊 隆 夫
〃	土 井 伸 宏
顧 問	松 井 孝 治
事 務 局 長	小 瀬 康 行
総 務 課 長	西 田 祐 司
組織振興課長(兼)	西 田 祐 司
事業推進課長	砂 野 高 士

京都第一赤十字病院

院 長	大 辻 英 吾
副 院 長	上 島 康 生
〃	大 澤 透
〃	佐 藤 秀 樹
〃	岡 本 和 真
事 務 部 長	益 田 結 花
看 護 部 長	田 中 由 美 子

京都第一赤十字看護専門学校

学 校 長(兼)	大 辻 英 吾
副 学 校 長	小 林 尚 美
事 務 部 長(兼)	益 田 結 花

京都第二赤十字病院

院 長	魚 嶋 伸 彦
副 院 長	藤 原 浩 芳
〃	平 田 学
〃	永 金 義 成
〃	宇 野 耕 治
事 務 部 長	浅 山 尚 紀
看 護 部 長	石 野 嘉 佳 子

京都第二赤十字看護専門学校

学 校 長(兼)	魚 嶋 伸 彦
副 学 校 長	副 島 和 美
事 務 部 長(兼)	浅 山 尚 紀

舞鶴赤十字病院

院 長	片 山 義 敬
副 院 長	米 山 聡 嗣
事 務 部 長	宮 田 英 樹
看 護 部 長	奥 野 佐 千 子

京都府赤十字血液センター

所 長	芦 原 英 司
事 務 部 長	宮 脇 剛
事業推進部長	辻 田 千 博

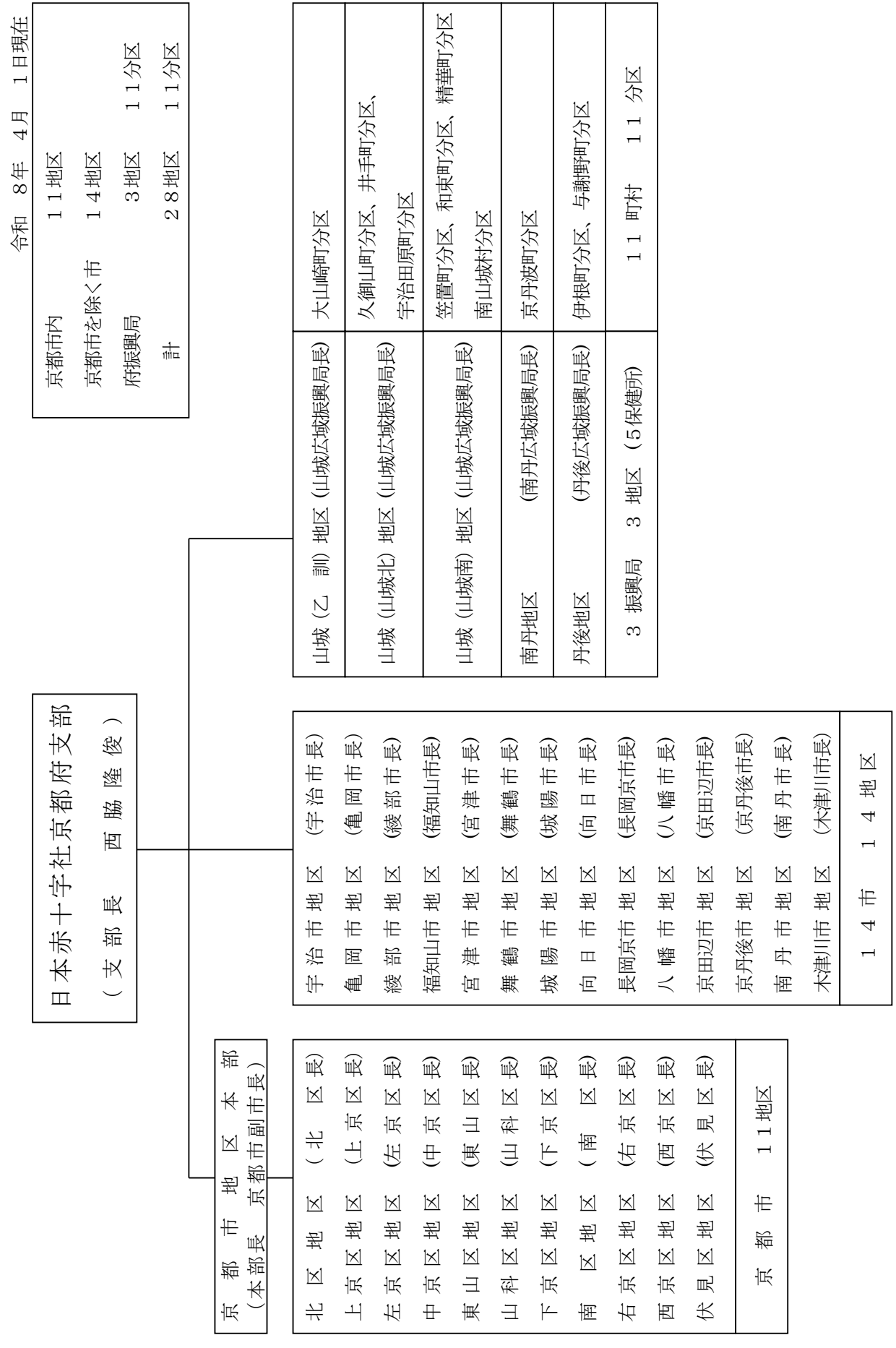
評 議 員 名 簿

(令和8年6月12日現在)

地区名等	氏名	地区名等	氏名
北区	山 本 勝 保	舞鶴市	鴨 田 秋 津
	辻 和 男	城陽市	村 田 正 明
上京区	山 田 陽 一	向日市	安 田 守
	柴 垣 隆 雄	八幡市	川 田 翔 子
左京区	(調 整 中)	京田辺市	上 村 崇
	風 間 隨 成	京丹後市	中 山 泰
	清 水 浩 平	南丹市	西 村 好 高
中京区	河 邑 明 佳	木津川市	谷 口 雄 一
	勝 田 鈴 子	山城	前 川 光
東山区	田 島 吉 廣		信 貴 康 孝
	澤 田 修 一		西 島 寛 道
山科区	○◇澤 田 清 一		勝 谷 聡 一
	吉 井 重 光		山 本 篤 志
下京区	小 川 原 繁		馬 場 正 実
	大 竹 辰 夫		杉 浦 正 省
南区	石 原 國 男		平 沼 和 彦
	高 落 秀 男	南丹	畠 中 源 一
右京区	森 田 眞 利	丹後	佐 賀 利 裕
	細 野 嘉 子	支部長選出	◇石 井 明 三
	松 本 浩 子		◇奥 田 光 治
西京区	関 谷 一 男		◇林 建 志
	黒 木 敬 司		◇安 道 光 二
伏見区	日 高 秀 昭		小 川 雅 史
	村尾平志郎		平 野 正 人
	平 由 美 子		俣 政 和
宇治市	松 村 淳 子		足 達 靖 彦
亀岡市	桂 川 孝 裕		安 井 邦 子
綾部市	四 方 源 太 郎		中 島 路 子
福知山市	大 橋 一 夫		
宮津市	城 崎 雅 文		

(順不同・敬称略) 本社役員等：○常任理事 ◇代議員 定数58名

日本赤十字社京都府支部 地区・分区組織図



施 設 一 覧

■ 日本赤十字社京都府支部

〒602-8044

京都市上京区下立売通油小路西入東橋詰町178 TEL 075(468)1182

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/kyoto/>

■ 京都第一赤十字病院

〒605-0981

京都市東山区本町15-749 TEL 075(561)1121

ホームページ <https://www.kyoto1.jrc.or.jp/>

■ 京都第一赤十字看護専門学校

〒605-0981

京都市東山区本町15-749 TEL 075(533)1269

ホームページ <https://www.kyoto1.jrc.or.jp/school>

■ 京都第二赤十字病院

〒602-8026

京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町355-5 TEL 075(231)5171

ホームページ <https://www.kyoto2.jrc.or.jp/>

■ 京都第二赤十字看護専門学校

〒602-8015

京都市上京区衣棚通出水下ル常泉院町133-3 TEL 075(441)2007

ホームページ <https://www.kyoto2.jrc.or.jp/nursing/>

■ 舞鶴赤十字病院

〒624-0906

舞鶴市字倉谷427 TEL 0773(75)4175

ホームページ <https://maizuru.jrc.or.jp/>

■ 京都府赤十字血液センター

〒612-8451

京都市伏見区中島北ノ口町26番地 TEL 075(603)8800

ホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/kk/kyoto/index.html>

四条出張所（献血ルーム四条）

〒600-8006

京都市下京区四条通柳馬場西入立売中之町99四条SETビル5F

TEL 0120(640)388

京都駅前出張所（献血ルーム京都駅前）

〒600-8216

京都市下京区烏丸通七条下ル東塩小路町735京阪京都ビル6F

TEL 0120(569)356

伏見大手筋出張所（献血ルーム伏見大手筋）

〒612-8053

京都市伏見区東大手町763若由ビル1F TEL 0120(731)350

福知山出張所

〒620-0853

福知山市長田野町1-31-1 TEL 0773(27)6630

令和7年度 事業報告書

発行日	令和8年6月
発行元	日本赤十字社京都府支部
住 所	京都府京都市上京区下立売通油小路西入東橋詰町178番地
T E L	075-468-1182
F A X	075-468-1789